

顔ガクガク錯視

The illusion of double vision of face

生駒忍

Shinobu IKOMA

E-mail : sikoma@human.tsukuba.ac.jp

和文要旨

新しい錯視現象である顔ガクガク錯視を紹介し、今後の研究課題について述べた。

キーワード：錯視、顔知覚、顔ゲシュタルト

Keywords : visual illusion, face perception, face gestalt

1. 緒言

最近、学術的な視点から取り上げられ始めている“顔ガクガク錯視”は、顔研究の諸領域に広く関心や議論を喚起しうる現象であると思われる。そこで、これを紹介すると共に、今後の研究の方向性を提示したい。

2. 顔ガクガク錯視とは



図 1. 顔ガクガク錯視の例

図 1 に例示したように、顔に目と口とをそれぞれ倍にして配すると、視覚像がガクガクと揺れているかのような、不安定で落ち着かない印象が得られうる。北岡 [1] はこれを、“顔ガクガク錯視”という呼称の下で紹介し、若干の考察を加えた。そして、生駒 [2] はいくつか検討を行い、この錯視の生起メカニズムについての仮説を提案した。図 1 に示した例も、生駒 [2] によるものである。

錯視というと、図形において長さや大きさ、角度や曲率などが異なって見える幾何学的錯視が有名であるが、顔ガクガク錯視はそこに該当しない。北岡 [1] は、ウォラストン錯視やサッチャー錯視などと共に、顔の錯視の中に位置づけている。また、知覚時の主観的体験からは、近年研究が増えつつある“動く錯視”の一種として理解することができる。

3. 今後の方向性

確認できている限りでは、学術誌に顔ガクガク錯視を記載したのは、北岡 [1] が初めてである。そのため、学術的な検討はほとんどされておらず、研究すべき課題は数多い。ここでは、顔研究への示唆が期待できるものを 3 つ挙げる。

まず、生起メカニズムの解明である。この錯視は、上下反転により効果が減じられることから顔